

1.0 はじめに

Wernick Xylosynth をお選びいただきありがとうございます。あなたは今、手作りの MIDI 互換打楽器コントローラーを所有しています。この楽器は、MIDI 環境の中でパーカッション奏者が最も快適に演奏できるように設計されています。私たちは過去数年間、多くのプレイヤーの皆様から質問をいただき、その情報をもとに Xylosynth のユニークな機能を数多く生み出しました。Xylosynth の特徴的な木製演奏面や、Wernick Percussion System の鍵盤、そして柔軟で使いやすいソフトウェアはこのプロセスから生まれました。私たちは「ミュージシャン主導」の楽器メーカーとして誇りを持ち、音楽を創造する皆様の想像力を形にすることを目指しています。

多くの方は MIDI に精通しており、ベロシティやノート番号の仕組みを理解されているかもしれませんが、そうでない方もいらっしゃると思います。しかし、MIDI による音楽制作は、これまでの従来の楽器では実現できなかった新たな創造性を引き出すことができます。私たちは、このマニュアルをできるだけ分かりやすくするよう努めましたので、基本的な部分については一緒に学んでいければと思います。もし不明点があれば、お気軽に電話や E メールでお問い合わせください。

まず最初に知っておいていただきたいのは、Xylosynth の基本パッケージに含まれている内容です。お手元の Xylosynth には、以下のものが含まれているはずです。

- 3 オクターブ (F-F または C-C) Xylosynth × 1
- 電源アダプター × 1
- マニュアル × 1
- ソフトマリリンバマレットのペア × 1

1.1 音源と増幅

Xylosynth は MIDI コントローラーであり、標準の楽器には音源が内蔵されていません。そのため、Xylosynth を演奏するには、いくつかの関連機器が必要になります。

最初に必要なのは音源です。これは、PC や Mac 上で動作するサウンドモジュールやソフトサンプラーなどが該当します。名前の通り、音を生成する役割を持っています。チューニングされた打楽器サウンドを備えたサウンドモジュールは、大手のハイテク楽器メーカーから提供されています。伝統的な打楽器サウンドに加えて、多くのサウンドモジュールには、アタックの速い電子的なサウンドが含まれており、マレット演奏に適しています。個々の好みに合わせた音を使用する場合は、ソフトサンプラーが必要です。チューニング済みの打楽器サウンドを収録したサンプルライブラリはすでに多数存在しており、サンプラーを使用すれば、自分だけのオリジナルサウンドを作成し、Xylosynth で演奏することも可能です。

Xylosynth をライブパフォーマンスで使用するための最終的なステップは、増幅です。最も簡単な方法は、音源または Xylosynth にヘッドフォン出力がある場合、高品質なヘッドフォンを接続することです。内蔵スピーカーがない場合、もう一つの選択肢は、高品質のアクティブスピーカーを使用することです。特にライブ演奏の場合、音の詳細をしっかりと聞くことが重要です。そのため、最適な解決策は、小型のミキサーとアクティブスピーカーを組み合わせることです。増幅機器を使用する際は、出力レベルを慎重に調整することが重要です。非常に大きな音量で再生すると、音の歪みが発生する可能性があるため、事前に適切な設定を行うことをお勧めします。

1.2 Xylosynth システムのセットアップ

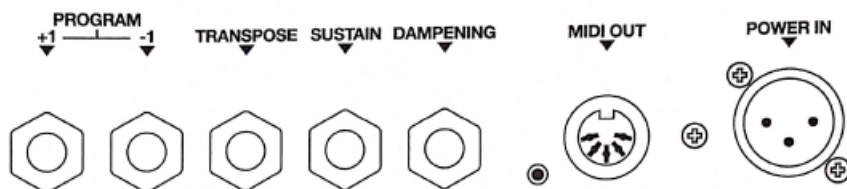
Xylosynth のセットアップは、少し練習すれば数分で完了するはずです。

常に Xylosynth を安定したテーブルやキーボードスタンドに設置してください。

楽器を安全に配置したら、接続を行います。

フロントパネルの右側を見ると、以下の接続端子があるのが分かります：

- プログラム変更ペダル/ボタン（+1、-1）
- トランスポーズペダル/ボタン
- サステインペダル
- ダンピングペダル/ボタン
- 青色 LED インジケーター
- MIDI 出力（MIDI Out）
- 電源入力（Power In）



電源アダプターをコンセントに接続し、XLR コネクタを楽器の電源入力に差し込みます。

Xylosynth には電源のオン/オフスイッチがありません。

内蔵サウンドを使用する場合は、ヘッドフォンを接続するか、ラインアウトを PA に接続して演奏を開始してください。

また、付属の MIDI ケーブルを使用し、Xylosynth の MIDI OUT 端子を音源の MIDI IN 端子に接続することで MIDI 演奏も可能です。

最後に、鍵盤を押してすべてのキーが正しく動作するか確認してください。

1.3 簡単な MIDI レッスン

Xylosynth のセットアップに入る前に、MIDI の基本について簡単に説明しておきます。

MIDI について全く知らなくても問題ありませんが、少しでも知識があると設定がスムーズになります。

MIDI（Musical Instrument Digital Interface）とは、音楽業界で広く使用されているデジタル通信規格のことです。

これにより、Xylosynth をはじめとする MIDI 対応機器が相互に通信できるようになっています。

MIDI は世界共通の規格となっているため、Xylosynth を MIDI 互換機器と接続すれば、どこでも演奏が可能です。

MIDI の詳細を説明し始めると膨大な情報になりますが、Xylosynth を使用するために必要なのは、以下の 4 つの基本パラメータです。

MIDI チャンネル番号（MIDI Channel Number）

MIDI には 16 のチャンネルがあり、これらは異なる MIDI 機器が通信したり、ソフトウェア内で異なるトラックを演奏する際に使用されます。

MIDI プログラム番号（MIDI Program Number）

プログラム番号は、MIDI 音源で使用する音色のコード番号です。

MIDI には 128 種類のプログラム番号があり、通常は音源の画面上に表示される音色名と対応しています。

一部の音源には、複数のバンクがあり、それぞれ 128 種類の異なる音を持つ場合もあります。

MIDI ノート番号（MIDI Note Number）

MIDI には 128 のノート番号があり、これは演奏する音の高さを定義するものです。
128 鍵のキーボードを持っているような感覚に近いと考えると分かりやすいでしょう。
通常、3 オクターブの Xylosynth (F-F の範囲) は、MIDI ノート番号 41 から 77 までの範囲になります。
簡単な目安として、中央 C (C4) は MIDI ノート番号 60、標準の A (A4, 440-442Hz) は MIDI ノート番号 69 です。

MIDI ベロシティ番号 (MIDI Velocity Number)

MIDI には 128 段階のベロシティ (強弱) レベルがあります。
ベロシティ番号は、MIDI サウンドに適用できる表現の強さを定義します。
例えば、ビブラフォンを強く叩くと音が大きくなり、優しく叩くと音が小さくなります。
MIDI ではこの概念が数値として表され、0 から 127 までの 128 段階で設定されます。
ベロシティ値 0 は、実質的に「ノートオフ (音を出さない)」と同じ意味になります。
Xylosynth では、実際には 256 のレベルを持っていますが、MIDI メッセージが送信される際には 128 レベルに変換されます。

2.0 ペダル/ボタンの操作 (Pedal/Button Controls)

Xylosynth の前面にあるペダル入力端子に ¼ インチジャックでペダルを接続すると、多くのコントロールが可能になります。
また、ボタンを使用しても各種操作ができます。ペダルは「ノーマルオープン」ロジックである必要があります。
つまり、ペダルが押されていないときはオープンサーキット (回路が開いている状態) で、押すと回路が閉じる仕組みになっています。
一部のペダルには、「ノーマルクローズド」のロジックに切り替えるスイッチが付いているものもありますが、Xylosynth では使用できません。

⚠ 注意 : Xylosynth は誤ったペダルでは動作しません。また、電力を供給するデバイス (信号出力ジャックなど) を接続しないでください。誤ったデバイスを接続すると、内部のチップが破損し、交換が必要になる可能性があります。

2.1 プログラム +1 および -1 ペダル/ボタン (Program +1 and -1 Pedal/Button)

プログラム +1/-1 のペダルやボタンは、「順方向・逆方向の移動」や「シーケンス内の操作」として機能します。
これらはライブ演奏や編集時に 4 つの異なる制御モードを持ち、それぞれのモードについては「3.0」のセクションで詳しく説明されます。

2.2 トランスポーズ ペダル/ボタン (Transpose Pedal/Button)

Transpose (トランスポーズ) ペダル/ボタンを使用すると、キーボードの音階範囲を変更できます。
Xylosynth を起動すると、C-C (C4-C5) または F-F (F2-F5) の範囲に設定されます。
ペダル/ボタンを押してキーを叩くと、そのキーが C3 または F3 として設定され、MIDI レンジを C0-C6 または F0-F6 に拡張できます。
この処理はリアルタイムで行われるため、設定中でも前の音階のノートが演奏可能です。

しかし、最新の音源では、異なるオクターブ範囲をプログラム内で設定できるため、トランスポーズ機能が不要になる場合があります。
その場合は Program +1/-1 ペダル/ボタン を使用してオクターブ範囲を変更できます。
また、どのキーを叩くかで C3 や F3 の位置を設定できるため、3 度や 5 度の移調も可能です。

2.3 サステインペダル（Sustain Pedal）

Sustain（サステイン）ペダルを踏むと、演奏中のすべての音が持続されます。ペダルを離すと、すべての音が即座に消えます。

ただし、演奏している音がサステインに対応していない場合や、ループ設定されていない場合は、ペダルを踏んでも効果が得られません。

例えば、ビブラフォンはサステインが適用されますが、マリンバはサステインが適用されません。もし、モノフォニック（単音）で演奏したい場合は、各ノートごとにペダルを素早く離すことで対応できます。または、音源側で「モノフォニックモード」に設定することも可能です。

2.4 ダンピング ペダル/ボタン（Dampening Pedal/Button）

Dampening（ダンピング）ペダル/ボタンを押すと、押されている間に演奏した音が個別にミュートされます。

⚠ ただし、サステインペダルと併用することはできません。

ダンピングは、ノートをもう一度軽く叩くことで実現することも可能です（この方法を活用する設定もあります）。

この機能は、軽く叩いた場合に音を小さくするための設定が適用されます。

3.0 インクリメンタルプログラム番号、プログラムコントロール変更、チャンネルおよびソングリストの選択と編集

このセクションでは、Program +1 および -1 の入力を使用したモード変更や、ソングリストの編集について説明します。

Xylosynth は、モードを選択または再選択すると、通常の電源オフ/オンの操作時にシーケンスの最初に戻ります。

ただし、前回のモードを記憶し、どの位置にいたかも保持する機能があります。

（ペダルバージョンでは、ペダルを 1 つ使用して編集し、Xylosynth を設定する際に正しい順序でプラグの抜き差しを行うだけで操作可能です。）

Xylosynth を起動する際には、ペダル入力/ボタンを押すようにしてください（どの入力を使用するかを指定する必要があります）。

手順は以下の通りです：

1. 電源ケーブルをコンセントに接続しない状態で、ペダルを正しいペダル入力端子に差し込みます。
2. ペダル/ボタンを押したままの状態を保持します。
3. ペダルを踏んだまま、電源プラグまたは XLR を Xylosynth に接続します。
4. 数秒間待機し、楽器が完全に電源オフの状態になったことを確認します。
5. Xylosynth の前面にある青色の LED ライトが一瞬点灯したら、ペダル/ボタンを離します。
6. 青色 LED が点灯したままの場合は、電源が完全にオフになっていなかった可能性があります。その場合は、電源を切り、もう一度同じ手順を実行してください。

3.1 インクリメンタルプログラム番号の変更 (Incremental Program Number Change)

Program +1 および -1 のペダル/ボタンを使用すると、次または前のプログラム番号にインクリメンタル（段階的）に移動できます。

別のモード（例：チャンネル番号の変更）を使用している場合は、Xylosynth をインクリメンタルプログラム番号モードにリセットする必要があります。

このリセットを行うには、起動時に Program -1 のペダル/ボタンを押し続けることで設定可能です。（この操作により、デフォルトの「0」または「1」にリセットされます。）

プログラム変更はリアルタイムで行われるため、新しいプログラムに移動しても前のプログラムのノートが継続して再生される可能性があります。

プログラム番号が 127 または 128 に達し、Program +1 を押した場合、0 または 1 に戻ります。

逆に、0 または 1 で Program -1 を押した場合、127 または 128 にループします。

Xylosynth では最大 128 種類のプログラム番号を扱うことができますが、音源によって動作が異なることがあります。

プログラム変更時に「不要な音」が鳴り続ける場合は、ノート長の設定を調整するか、「All Notes Off」メッセージを送信することで対処可能です。

ただし、一部のソフトサンプラーやシーケンサーでは、「All Notes Off」メッセージが機能しない場合があります。

3.2 ソングリストの制御 (Song List Control)

Program +1 および -1 のペダル/ボタンを使用すると、ソングリスト内で次または前のプログラム番号に移動できます。

Xylosynth の電源を初めて入れたときは、ソングリストモードがデフォルトになります。

このデフォルトのソングリストには、グロッケンシュピール、ビブラフォン、シロフォン、マリンバ（General MIDI, GM）が含まれています。

ペダル/ボタン（Program +1 または -1）を押すことで、リスト内の異なる音色に切り替えることができます。

別のモードを使用している場合、ソングリストモードにリセットする必要があります。

リセットするには、起動時に「Transpose」ペダル/ボタンを押し続けてください。

プログラム変更はリアルタイムで行われるため、前のプログラムのノートが継続して演奏される可能性があります。

ソングリストのシーケンスの最後に到達して Program +1 を押すと、最初のプログラムに戻ります。

逆に、最初のプログラムで「Program -1」を押すと、シーケンスの最後に移動します。

ソングリストには最大 50 のプログラムを登録できますが、音源によって挙動が異なる場合があります。

⚠ 補足事項

プログラム変更時に「不要な音」が鳴り続ける問題が発生した場合は、ノート長の調整や「All Notes Off」メッセージを送信することで対処可能ですが、一部のソフトサンプラーやシーケンサーでは「All Notes Off」メッセージが機能しない場合があります。

3.3 インクリメンタルプログラムコントロール変更 (Incremental Program Control Change)

Program +1 および -1 のペダル/ボタンを使用すると、コントロールチェンジの増減（Control Change Increment/Decrement, CC 96 または CC 97）を送信できます。

このモードを設定するには、起動時に「Sustain」ペダル/ボタンを押し続けてください。

⚠ この機能はリアルタイムで動作するため、プログラムを変更しても前のプログラムのノートが再生され続けることがあります。

一部のサウンドモジュールではこの機能が認識されない、または事前にプログラムが必要な場合があります。ただし、ソフトウェア音源では、プログラム番号（Program Number）の制限が 128 までなのに対し、この機能には制限がないため、活用することでより柔軟な制御が可能になります。

⚠ 音源によっては、プログラムを誤って変更した際に不要なノートが鳴り続ける可能性があります。その場合は、「ノート長（Length of Note）」のノブを「パニックボタン（All Notes Off）」として使用することで、現在のチャンネルの「All Notes Off」メッセージを送信することが可能です。ただし、一部のソフトサンプラーやシーケンサーでは、このメッセージが機能しない場合があります。

3.4 インクリメンタルチャンネル番号の制御（Incremental Channel Number Control）

Program +1 および -1 のペダル/ボタンを使用すると、音源の MIDI チャンネル番号を 1 つずつ増減できます。このモードを設定するには、起動時に「Dampening」ペダル/ボタンを押し続けてください。

⚠ この操作を行うと、シーケンスの最初（通常はチャンネル 1）に戻ります。

通常、Xylosynth は特定のチャンネル番号に設定した後、そのまま使用することを推奨します。そのため、チャンネル設定後は「Program +1 / -1」ペダルを押してソングリストモードやインクリメンタルプログラム番号モードに変更するのが望ましいです。これにより、意図せずチャンネルが変更されるのを防ぐことができます。

この機能はインクリメンタルプログラム番号の制御と同様にリアルタイムで動作するため、チャンネルを変更しても前のチャンネルのノートが演奏され続ける可能性があります。

- チャンネル番号が 16 に達し、さらに +1 すると 1 にループします。
- チャンネル番号が 1 のときに -1 すると 16 にループします。

⚠ 音源によっては、チャンネルを誤って変更した際に不要なノートが鳴り続ける可能性があります。その場合は、音源側の「パニックボタン（All Notes Off）」を使用して不要な音を止める必要があります。「ノート長（Length of Note）」のノブを「パニックボタン」として使用しても、正しいチャンネルでなければ効果がありません。

3.5 ソングリストの編集（Editing Song List）

ソングリストの編集は、Xylosynth にサウンドモジュールを接続している場合に簡単に行えます。この場合、まずサウンドモジュールを接続してください。内蔵サウンドがある場合は、この手順は必要ありません。

また、サウンドモジュールまたは Xylosynth のディスプレイが視界にある状態で、編集するソングリストを事前に書き出しておくことを推奨します。

ソングリストの編集中は、キーを押してプログラム番号を選択するため、誰も誤ってキーを押さないようにしてください。

もし Xylosynth にディスプレイがある場合は、それを使用できます。

準備ができれば、次の手順に従って編集を行ってください：

1. 電源オン時に「Program +1」ペダル/ボタンを押し続ける → 編集モードに入る
2. トップキー（最上部のキー）から 1 オクターブ下の白鍵を叩く
→ サウンドモジュールのディスプレイに新しいプログラム番号が表示される（例：60, 70, 80）
3. トップキーを軽く叩く
→ プログラム番号が表示されない場合は、編集モードでの動作が正しく機能していない可能性がある
4. プログラム番号が 59, 69, 79 のいずれかだった場合
→ 一部のサウンドモジュールはプログラム番号 0-127 または 1-128 の異なる方式を使用しているため、変更が必要

5. ロジックを変更する方法

- 電源オン時に「Program -1」 + 「Sustain」 ペダル/ボタンを押す
- その後、「Program +1」 ペダル/ボタンを押して編集モードに戻る

特定のプログラム番号（例：125）を設定する方法

- 白鍵を叩いて 120 を入力
- 黒鍵を叩いて 5 を加算
- これで 125 を入力完了

白鍵（13 個）は 10 単位（0, 10, 20, 30... 120）を入力し、

黒鍵は 1 桁（0, 1, 2, 3... 9）を入力します。

この方式を使って必要なプログラム番号を設定してください。

プログラム番号を確認するには：

- 試行錯誤で入力
- 2 桁目の始まりをカウントアップして特定する
- 誤って最上部のキーを叩かない（Edit モードが終了してしまう）

正しいプログラム番号がサウンドモジュールに表示されたら、「Program +1」ペダル/ボタンを押して保存できます。

すると、Xylosynth は次のソングリストの番号を待機します。

例：プログラム番号 6 を追加する場合

- 黒鍵を 1 回叩いてプログラム 6 を設定
- または、白鍵で「00」、黒鍵で「6」を設定（順番は逆でも可）
- 正しいプログラム番号が表示されたら「Program +1」ペダル/ボタンを押して保存

ソングリストの完成

1. 同様の操作を繰り返し、必要なプログラムをリストに追加
2. 最後のプログラム番号を追加後、「Program +1」ペダル/ボタンを押す
3. トップキーを押すと、「Program 0」が表示される
4. これで編集モードを終了し、通常のソングリストモードに戻る
5. 演奏可能な状態で、ソングリストが正しく機能するか「Program +1」ペダル/ボタンで確認
6. Xylosynth はソングリストを記憶し、次回編集モードに戻るまで保持

4.0 アナログ設定（Analogue Settings）

- SENSITIVITY（感度調整）
- NOTE LENGTH（音の長さ調整）



4.1 ノートの長さ（Length of Note）

ゲートタイム（Gate Time）とも呼ばれるノート長（Note Length）コントロールは、各ノートの長さを正確に調整し、音の定義を細かく設定できる機能です。

- コントロール範囲は「瞬時オフ（Instant Note Off）」0.03 秒（30 ミリ秒）から 8 秒まで
- 短い時間を細かく調整できるよう、0.080 秒（80 ミリ秒）ごとの増分で 0.4 秒まで調整可能
- それ以上の長さでは、コントロールの精度がやや低くなる（サンプルサウンドに多く使用）

ノートの長さは、演奏面の右上にあるアナログノブで設定できます。

⚠ 演奏中にこのノブを調整すると、現在鳴っているノートが個別にオフになり、「All Notes Off」メッセージが送信されるため、パニックボタンとして使用できます。ノブの調整が終わると、通常通りノートが演奏されます。

4.2 感度調整（Sensitivity）

このマスター感度コントロールは、すべてのキーに均等に影響を与えます。どのパッチを使用しているても、Xylosynth の演奏特性を自分のスタイルに適応させるために活用できます。

感度は、演奏面の右上にあるアナログノブで調整します。

- 最小設定 → 強く叩いても約 25% の MIDI ベロシティ
- ノブを半回転ほど増やす → 強く叩いたときに最大 MIDI ベロシティを生成
- ノブの調整範囲後半 → 127 の MIDI ベロシティ範囲を完全にカバー

感度の調整方法

1. 最初に感度ノブを最大（時計回りに回しきる）
2. キーを強く叩く
3. 音が最大になる位置を探しながら、ノブを反時計回りに調整
4. 音の強さが減衰し始めたら、そこから微調整

または、ノブを中央付近に設定し、その範囲に慣れるのも推奨されます。

⚠ 推奨設定

- ソフトマリンバマレットを使用することを強く推奨
 - 適切なダイナミックレンジを得るため
 - センサーへの物理的ダメージを最小限に抑えるため
- 感度ノブの設定が変わっても、低い MIDI ベロシティの値は影響を受けない

5.0 一般的なメンテナンス（General Care）

使用するマレットは、表面に傷をつけないよう清潔なものを使用してください。

- バーチ（Birch）素材の表面は、硬質ポリウレタン塗装でコーティング
 - 数年間の耐久性あり
- ブビンガ（Bubinga）素材の鍵盤は、Rustins Danish Oil で再塗装が可能
 - 急激な温度変化に晒さないよう注意

⚠ 長時間の保管について

- 長時間の保管が必要な場合、気温の変化が激しい場所に放置しない
- 大型ホールに楽器を一晩放置する場合は、絶縁カバー（柔らかいバッグなど）を使用
- ラジエーターの近くに楽器を置かない

- キーの間の清掃は、直径 10mm のチューブと掃除機ホースを使用
- 長時間縦置きしない（専用ケースがない限り）
- 水平な場所に保管し、揺れや衝撃を避ける

6.0 Xylosynth の拡張オプション（For Xylosynths with Extra Options）

Xylosynth は、さまざまな演奏用途に適応できる汎用性の高い楽器として進化してきました。これは、ユーザーのフィードバックを取り入れながら改善されてきた結果です。

⚠ 設計理念

- シンプルさを保つことを最優先
- 1 つのモデルに不要な機能を詰め込むのではなく、必要に応じてオプションを提供
- カスタムビルドで、演奏者のニーズに合わせた楽器を提供

6.1 ボタン（Buttons）

この機能は、ドラムコー（Drum Corps）などの屋外演奏向けに開発されました。ペダルを使用せずに、以下の機能をボタンで操作できるようになります：

- +1
- -1
- トランスポーズ
- ダンピング

これにより、ペダルが不要になり、手元のボタンのみで主要な機能を制御できます。これらの機能の詳細については、[セクション 2](#) を参照してください。

6.2 ディスプレイ（Display）

この機能は、現在 Xylosynth がどのモードで設定されているかを表示します。
+1 および -1 ボタンコントロールのモード（インクリメンタルプログラム番号、プログラムコントロール変更、チャンネル、またはソングリスト）を確認でき、
関連する MIDI 番号も表示されます（該当する場合）。

また、内部サウンドの設定や、サウンドモジュールが視界にない場合のソングリスト編集にも役立ちます。さらに、現在 Xylosynth が設定されている MIDI チャンネル番号も確認可能です。

MIDI ノート番号のロジック確認

まず最初に、使用しているサウンドモジュールが MIDI ノート番号を 0-127 または 1-128 のどちらで扱っているかを確認してください。

⚠ 異なるロジックを使用している場合、表示される番号がずれる可能性があります。

ロジックの切り替えは、電源オン時に「Program -1」+「Sustain」ペダル/ボタンを押し続けることで変更可能です。

サウンドモジュールの表示に 1 ずつズレがある場合は、この方法で修正してください。

インクリメンタルプログラム番号モードの場合（Incremental Program Number）

（設定方法は [セクション 3.1](#) を参照）

- 電源オン時には番号は表示されない

- +1 / -1 ボタンを押すと、0-127 または 1-128 の番号が表示される
- Xylosynth は、プログラム変更メッセージを送信後にプログラム番号を表示
- サウンドを切り替えながら、お気に入りの音色リストを作成するのに便利

プログラムコントロール変更モードの場合 (Program Control Change)

(設定方法は [セクション 3.3](#) を参照)

- 電源オン時には番号は表示されない
- +1 / -1 ボタンを押すと、上下矢印 (↑↓) が表示される
- Xylosynth は「プログラムコントロール変更メッセージ (CC 96 または CC 97)」を送信
- Forte ソフトウェアなどで 128 を超えるシーン変更を行う場合に有用

インクリメンタルチャンネル番号モードの場合 (Incremental Channel Number)

(設定方法は [セクション 3.4](#) を参照)

- 電源オン時には番号は表示されない
- +1 / -1 ボタンを押すと、「C」と 1-16 の番号が表示される
- ノートを演奏すると、そのノートの MIDI チャンネルが更新されて表示
- MIDI メッセージにはチャンネル情報が含まれているため、ノートを叩くことで現在の MIDI チャンネルが判明
- +1 / -1 ボタンを押しても、現在のチャンネルの「All Notes Off」メッセージが送信されるだけで、チャンネル変更は反映されない
- 例えば「チャンネル 1」から「チャンネル 5」に変更したい場合：
 - i. +1 ボタンを 4 回押す
 - ii. C1, C2, C3, C4 の順に表示される
 - iii. キーを叩くと C5 に変更される

ソングリスト制御モードの場合 (Song List Control)

(設定方法は [セクション 3.2](#) を参照)

- 電源オン時には番号は表示されない
- +1 / -1 ボタンを押すと、0-127 または 1-128 の番号が表示される
- Xylosynth は、プログラム変更メッセージを送信後にプログラム番号を表示
- このモードでは番号の変更がすぐに反映されないことがある
- ソングリストの編集方法については [セクション 3.5](#) を参照

6.3 内蔵サウンド (Internal Sounds)

Xylosynth には ¼ インチジャック (6.35mm ジャック) の出力端子が 2 つあります。これらのサウンドは、Xylosynth を演奏することでのみ再生可能で、練習用のクオリティとなっていますが、パフォーマンス用途としても使用できる可能性があります。

音量調整について

Xylosynth には直接的なボリュームノブがありませんが、音量を変化させる方法はいくつかあります：

1. 鍵盤を叩く強さを変える → 強く叩けば大きく、弱く叩けば小さく
2. 左手側のジャックをヘッドフォン用、右手側のジャックをライン出力用として使用
→ ヘッドフォン出力はライン出力の約 2 倍の音量

3. 感度ノブ（Sensitivity Knob）を調整することで、ボリュームを間接的にコントロール
→ 最初の半回転（25%-100%）でボリュームコントロールが可能

MIDI プログラム番号とチャンネル

- MIDI プログラム番号 1-128 でアクセス可能
- MIDI チャンネル 1-9 および 11-16 で利用可能
- MIDI チャンネル 10 はパーカッション専用

⚠ ディスプレイ上の番号が 1 ずれる場合は、[セクション 6.2](#) を参照し、表示を調整してください。

内蔵サウンドリスト（0-127）

番号	サウンド名	番号	サウンド名	番号	サウンド名
0	グランドピアノ	1	ブライトピアノ	2	エレクトリックグランドピアノ
3	ホンキートンクピアノ	4	エレクトリックピアノ 1	5	エレクトリックピアノ 2
6	ハープシコード	7	クラビ	8	チェレスタ
9	グロッケンシュピール	10	オルゴール	11	ビブラフォン
12	マリンバ	13	シロフォン	14	チューブラーベル
15	サントウル	16	ドローバーオルガン	17	パーカッシブオルガン
18	ロックオルガン	19	チャーチオルガン	20	リードオルガン
21	アコーディオン（フランス）	22	ハーモニカ	23	タンゴアコーディオン
24	アコースティックギター（ナイロン）	25	アコースティックギター（スチール）	26	エレキギター（ジャズ）
27	エレキギター（クリーン）	28	エレキギター（ミュート）	29	オーバードライブギター
30	ディストーションギター	31	ギターハーモニクス	32	アコースティックベース
33	フィンガーベース	34	ピックベース	35	フレットレスベース
36	スラップベース 1	37	スラップベース 2	38	シンセベース 1
39	シンセベース 2	40	バイオリン	41	ビオラ
42	チェロ	43	コントラバス	44	トレモロストリングス
45	ピチカートストリングス	46	オーケストラハープ	47	ティンパニ
48	ストリングアンサンブル 1	49	ストリングアンサンブル 2	50	シンセストリングス 1
51	シンセストリングス 2	52	クワイアアー	53	ボイスウー
54	シンセボイス	55	オーケストラヒット	56	トランペット

番号	サウンド名	番号	サウンド名	番号	サウンド名
57	トロンボーン	58	チューバ	59	ミュートトランペット
60	フレンチホルン	61	ブラスセクション	62	シンセブラス 1
63	シンセブラス 2	64	ソプラノサックス	65	アルトサックス
66	テナーサックス (FX クリスタル)	67	バリトンサックス (FX 雰囲気)	68	オーボエ (FX 輝き)
69	イングリッシュホルン	70	バスーン	71	クラリネット
72	ピッコロ	73	フルート	74	リコーダー
75	パンフルート	76	ブローンボトル	77	尺八
78	ホイッスル	79	オカリナ	80	リード 1 (スクエア)
81	リード 2 (ソー)	82	リード 3 (カリオペ)	83	リード 4 (チフ)
84	リード 5 (チャラン)	85	リード 6 (ボイス)	86	リード 7 (フィフス)
87	リード 8 (ベース+リード)	88	パッド 1 (ファンタジア)	89	パッド 2 (ウォーム)
90	パッド 3 (ポリシンセ)	91	パッド 4 (クワイア)	92	パッド 5 (ボウド)
93	パッド 6 (メタリック)	94	パッド 7 (ヘイロー)	95	パッド 8 (スウィープ)
96	FX 1 (雨)	97	FX 2 (サウンドトラック)	98	FX 3 (クリスタル)
99	FX 4 (雰囲気)	100	FX 5 (輝き)	101	FX 6 (ゴブリン)
102	FX 7 (エコー)	103	FX 8 (サイファイ)	104	シタール
105	バンジョー	106	三味線	107	琴
108	カリンバ	109	バグパイプ	110	フィドル
111	シャナイ	112	ティンクルベル	113	アゴゴ
114	スチールドラム	115	ウッドブロック	116	太鼓
117	メロディックタム	118	シンセドラム	119	リバースシンバル
120	ギターフレットノイズ	121	海岸	122	鳥のさえずり
123	電話のベル	124	ヘリコプター	125	拍手
126	銃声	127	パーカッション		

チャンネル 10 の MIDI ノートによるパーカッション音源

チャンネル 10 では、任意のプログラム番号で以下のサウンドが異なるキーを押すことで再生されます。
以下の番号は MIDI ノート番号を示しており、60 がミドル C (C4) になります。

番号	サウンド名	番号	サウンド名	番号	サウンド名
35	キックドラム	36	キックドラム 2	37	サイドスティック

番号	サウンド名	番号	サウンド名	番号	サウンド名
38	スネアドラム 1	39	ハンドクラップブラッシュ スラップ	40	スネアドラム 2
41	F2 低床タム	42	クローズドハイハット [EXC1]	43	高床タム
44	ペダルハイハット [EXC1]	45	ロータム	46	オープンハイハット [EXC1]
47	低/中タム	48	中/高タム	49	クラッシュシンバル 1
50	ハイタム	51	ライドシンバル 1	52	チャイニーズシンバル
53	ライドベル	54	タンバリン	55	スブラッシュシンバル
56	カウベル	57	クラッシュシンバル 2	58	ビブラスラップ
59	ライドシンバル 2	60	ハイボンゴ	61	ローボンゴ
62	ミュートハイコンガ	63	オープンハイコンガ	64	ローコンガ
65	ハイティンバル	66	ローティンバル	67	ハイアゴゴ
68	ローアゴゴ	69	カバサ	70	マラカス
71	ショートホイッスル [EXC2]	72	ロングホイッスル [EXC2]	73	ショートグイロ [EXC3]
74	ロンググイロ [EXC3]	75	クラベス	76	ハイツッドブロック
77	ローウッドブロック	78	ミュートクイーカ [EXC4]	79	オープンクイーカ [EXC4]
80	ミュートトライアングル [EXC5]	81	オープントライアングル [EXC5]		

7.0 キーの交換方法（How to Replace a Key）

7.1 必要な工具（Tools Required）

- Pozi Drive（ポジドライブ）スクリュードライバー
 - PZ1 ビットサイズ（クロスヘッドとして使用）
- 7mm ソケットまたは M4 ナット用スパナ

7.2 一般的な注意点（General Notes）

キーの交換作業は、これまでに同じ作業を行ったことがある場合、20 分以内に完了するはずです。
Pozi ドライブ（PZ1）ビットを使用し、バッテリー駆動の電動ドリルを使うと作業時間を短縮できます。
ただし、電動ドリルの使用には慣れが必要であり、適切に扱える場合のみ推奨されます。

7.3 説明（Description）

1. 作業場所の選定

- カーペットが清潔であれば、その上で作業可能（木製バーを傷つけないようにするため）。
- 適切なカーペットがない場合は、120cm × 30cm（48 インチ × 12 インチ）の布を使用。
- または、テーブルクロスを敷いたテーブルの上で作業可能。

2. Xylosynth を作業スペースに置く

- Xylosynth を逆さまにして 作業スペースに設置。

3. ボトムパネルのネジを取り外す

- 電動ドリル（バッテリー駆動）を使用できる場合は、すべてのクロスヘッドネジを取り外す。
- ボトムパネルを固定している 2 種類（または 3 種類、4/5 オクターブの場合）のネジの配置を記録しておく。

4. ボトムパネルを持ち上げて取り外す。

5. 交換するキーの位置を特定

- 白いプラスチックカバーを、バネ付きのクリップから慎重に取り外す。
- ナット 2 個とワッシャーを取り外す。

6. キーの取り外し手順

- 片手をキーの下に入れ、もう片方の手でキーを外す。
- 楽器の前面または背面を持ち上げると、作業がしやすくなる場合がある。
- コネクターのハウジングを穴から引き出す必要がある場合は、慎重に行う。
- ワイヤーを過度に引っ張らないよう注意！

7. 再組み立て

- 手順は逆の順序で行うが、以下の点に注意：
 - キーを取り付ける際、ワイヤーが挟まらないよう慎重に作業すること。
 - 既存のワイヤーループと比較し、正しく配置されているか確認する。
 - キーを取り付ける前に、ナットやワッシャーの位置を調整し、自由に動くことを確認する。
 - ワッシャーが基板とアルミニウムにしっかり接触するよう締めるが、過度に締め付けないよう注意。
- コネクタブロックの金メッキ部分を布やティッシュで拭き、指の油やグリースを取り除く。
- コネクタハウジングを元のブロックに正しく戻す。
 - ハウジングは一方向にしか取り付けられないため、正しく合わせること。
- ボトムカバーを戻し、ネジを慎重に締める。
- Xylosynth を正しい向きに戻し、電源を入れてキーを叩き、動作を確認する。
 - 青色 LED が点灯し、キーが正常に動作することを確認。
- 問題がなければ、残りのネジをボトムカバーに取り付けて完了。

8.0 物理仕様（Physical Specifications）

項目	仕様
オクターブ数	3 オクターブ
全長	1225mm（48.25 インチ）
高さ	82mm（3.552 インチ）
奥行き	360mm（14 インチ）

項目	仕様
重量	10Kg (22 ポンド)
キー数	37

9.0 ヘルプ (Help)

私たちは小規模で親しみやすい電子パーカッションメーカーです。
できる限り皆様のお手伝いをさせていただきますので、どんなご質問でもお気軽にお問い合わせください。
電話やメールでのアドバイスは無料 で提供しており、99%の問題はこの方法で解決可能 です。

万が一、問題が発生した場合も、問題の原因を特定し、最適な解決策を迅速にご提案 いたします。
また、他の関連機器に関するアドバイス も喜んで提供いたします。
ウェブサイトも定期的に更新し、新製品や最新情報をお届けしますので、ぜひご確認ください。

10.0 お問い合わせ方法 (How to Contact Us)

連絡先情報	詳細
電話 (イギリス)	+44 (0) 116-255-6225
電話 (イギリス)	+44 (0) 116-212-8045
FAX	(記載なし)
メール	info@wernick.net
ウェブサイト	http://www.wernick.net
担当者名	Will Wernick, Julie-Ellen John
特許情報	アメリカ : 特許番号 5854436 イギリス&フランス (EP) : 特許番号 0732683 ドイツ : 特許番号 69610518

© Wernick Musical Instruments 2005 全著作権所有
本マニュアルの仕様は、予告なく変更される場合があります。